

Project 1

研究活動報告

黒澤 満

プロジェクト1の研究課題は「国際共生の研究」であり、国際社会における共生の現状分析および将来のあるべき共生の姿を研究することである。具体的には、国際の平和と安全保障、人権の国際的保障、持続可能な開発の促進、地球環境の保護、多文化共生社会の構築、人間の安全保障など、国際社会に生起する重要課題を総合的に研究し、全体として国際共生の学問的体系化を志向するものである。

これらの研究の中心は、研究所のプロジェクトとして「国際共生とは何か」についての総合的な研究である。ここ2年ほどは、「国際共生とは何か」という基本的テーマの下に、外部からの講師をお招きし、さまざまな講演会や研究会を開催し、研究員との積極的な議論を展開してきた。その成果として、2014年2月末に、大阪女学院大学国際共生研究所叢書3、黒澤満編著『国際共生とは何か—平和で公正な世界へ』（東信堂）を刊行した。

本書の第一の目的は、国際関係論あるいは国際政治において「国際共生」という概念の内容および特徴を明らかにし、この用語の使用のメリットを明らかにすることであり、第二の目的は、国際共生に対応する外国語、特に欧米語の欠如は、欧米においてこのような概念が存在しないことを意味するのかどうかを明らかにすることであり、第三の目的は、「共生」の研究は日本で広く行われているが、「国際共生」の研究はほぼ皆無であり、この分野での研究をリードすることである。

本書は5部から構成されており、第1部「平和と国際共生」では、佐々木寛新潟国際情報大学教授および千葉眞国際基督教大学教授による論文が含まれ、第2部「人権と国際共生」では、土佐弘之神戸大学教授および川村暁雄関西学院大学教授の論文が含まれている。第3部「環境と国際共生」では、井上真東京大学教授および高村かおり名古屋大学教授の論文が含まれ、第4部「開発と国際共生」では、勝間靖早稲田大学教授および高柳彰夫フェリス女学院大学教授の論文が含まれており、第5部「教育と国際共生」では、高橋朋子近畿大学講師および乾美紀兵庫県立大学准教授の論文が含まれている。

以上のように、本書は「国際共生とは何か」について、平和、人権、環境、開発、教育の分野における専門家の分析を含む国際社会の実体を分析し、国際共生の概念や役割を分析するものである。

プロジェクト1の今後の研究課題は、広義の安全保障と国際共生との関連を分析することである。国際社会における「安全保障」の概念は近年大きな発展を遂げており、概念の拡大による課題の重要性の認識という作業が広く行われている。安全保障の本来の使用領域は「国家安全保障」であり、近代国際社会の成立とともに国家の存続に不可欠のものとして、国際関係における中心的存在であった。国際連盟や国際連合の成立とともに、国家間の安全保障を意味する「国際安全保障」という概念が広く共有されるようになり、国連の第一の目的も国際の平和と安全保障を維持することである。最近の安全保障の垂直的な拡大は、一つは「地球的安全保障であり」、もう一つは「人間の安全保障」である。これらは、国家や国際社会ではなく、地球全体の

安全保障および個々の人間の安全保障を重要視するものである。

安全保障概念の本来の意味内容は「軍事的安全保障」であり、他国からの軍事的脅威に対応するものであり、国家安全保障および国際安全保障の中心は、軍事的脅威への対応であった。最近の安全保障概念の水平的拡大は、「経済安全保障」「食糧安全保障」「健康安全保障」「環境安全保障」など多岐にわたっている。

今後のプロジェクト1の研究は、これらのさまざまな安全保障の概念を「国際共生」の概念との関連で分析していくことである。

Project 2

研究活動報告

Brian D. Teaman

Creating electronic textbooks that inspire collaboration and coexistence

OJU/OJC began supplying all incoming freshman with iPad tablets starting in the school year beginning in 2012. We were one of the first schools in the world to do so. With the introduction of the iPad came the commitment through the leadership of President Eiko Kato to produce textbooks that can be used and read in an electronic format for the iPad. Up until now, the third year of iPad use here, more than 10 books have been produced with content focusing on global issues. Most of these books have been produced for English classes for the first year students. The books fall into roughly three categories: 1. books which focus on reading, 2. books which focus on speaking and 3. supplemental books that focus on writing techniques and general classroom skills needed to participate in first year English classes.

It is worth mentioning some of the technical aspects of the eBooks. The term "eBook" designates any kind of book in electronic form. The iBook technology, however, is Apple Computer's proprietary software development platform. The key advantage of the iBook over other eBook formats is the ability to include interactivity and media that encourages a more effective learning experience. Interactivity is provided through galleries of pictures, video and audio, as well as review quizzes and other useful features. Since the books are on a tablet computer, links to internet sources on the web make the Internet readily accessible to all students as part of their class and homework activities.

Several professors have played key roles in this development process. Tamara Swenson has been instrumental in beginning the process and overseeing much of the production of the iBooks. David Bramley has been instrumental in providing the basic concepts that have been used in the "Talking about..." series. Project 2 member, Steve Cornwell, is now providing a